

1. 課題区分・管理番号 地域活性化課題 27-c003
2. 研究テーマ名 「学生（留学生を含む）を対象にした街なか研究室とシェアハウスのモデルケース作り」
3. 研究期間 平成27年8月1日 ～ 平成28年3月31日
4. 研究代表者 工学部／総合デザイン学科（職名）教授（氏名）松井 淳
5. 課題提案者（有）スタイル代表 松島 郁夫

6. 研究成果の概要

下欄には当該研究成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、地域課題研究事業計画書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、A4で2～3枚程度で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。本学HPにて公表しますので、公表できる内容としてください。

■前橋中心市街地にシェアハウスを創ることの目的と意義

前橋中心市街地旧活性化重点地区（以下、中心市街地）はかつての前橋市の中心商業地という役割からの変換を必要としている。衰退が叫ばれて久しいが最大の課題は、商業地から、住む人、来る人、働く人といった多様な人たちが中心市街地に居るようにすることである。居住人口を多少なりとも増やすために、中心市街地内に居住施設を用意するための調査・研究を行った。本研究は平成25年度の地域課題研究事業で行ったシェアハウス：弁天シェアハウス（竣工済）の隣の建物を学生のためのシェアハウスにするための調査・研究・提案である。

■既存ストックの再活用

中心市街地内には活用されていない多くの施設：住居併用店舗が存在する。ストックとしての既存建築物を居住施設へとリニューアルを行うことは環境に対する負荷軽減にもつながる。本研究での対象建物は立川町通りと弁天通り商店街が交差する角地にある「旧中田屋ビル」である。建物の状態が目視であり良い状態では無かったことより事業計画の作成は提案をまとめた後に行うこととした。また、研究テーマの中にある「研究室」という初期のプログラムも類似施設が今後実現するというので、見直しを図ることとした。

■以下に学生（留学生を含む）シェアハウスの提案の図面などを用い説明する。

原則として既存ダムウェタは長期間にわたり使用されていないので、本計画では撤去することを前提として計画を進めることとした。

■プランの提案

A~Eのタイプの違う5つのプランの提案を行った。

それぞれが各階の個室の数、コミュニティスペースの配置の仕方などが異なっている。

今回はその中でもタイプの違いが顕著に出ているAタイプとEタイプのプランを掲載する。

■Aタイプ

コンセプト

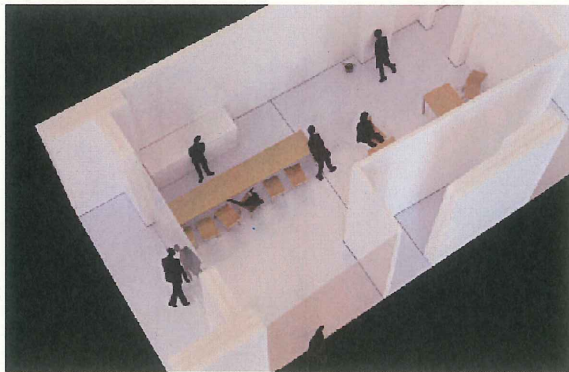
従来のシェアハウスはそのほとんどが共通のリビング、キッチンなどを有している。しかしそれぞれのライフスタイルの違いなどにより上手く活用されていない現状がある。そこで各居住フロアで生活が完結され、またコモンスペースのありかたを階ごとに変化させることで多様な人に対応でき、居住者が自分にあったライフスタイルのあり方を選択できるような設計をおこなった。シェアハウスの新しいコモンスペース、ライフスタイルのあり方を目指す。

■1F

1階部分はオープンスペースで、共通のリビングや食堂として使用する。通りからキッチンや飲食スペースが見えるため前を通り過ぎる人が入り易いようになっている。また居住者のコモンスペースにも使われ、街のひととの接点として利用される。

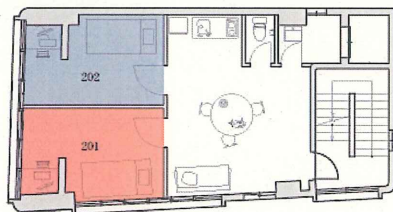


1F床面積	56.7㎡
店舖	35.9㎡
水回り	1.7㎡
生活動線	4.4㎡

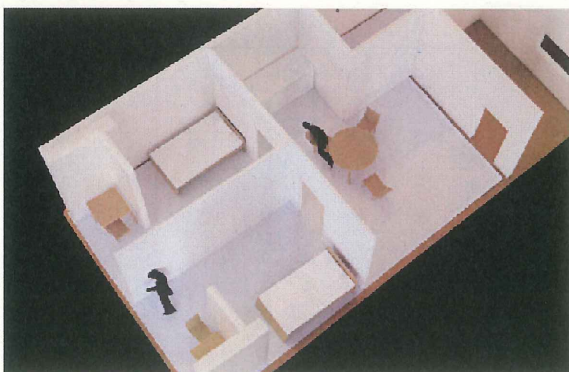


■2F

空間の北側に2Fの住人のコモンスペースを設置することにより、他の階の住民とも接点を持つことができる。また兩個室とも南側の開口に面しているため部屋全体に採光が行き渡る。



2F 床面積	56.7㎡
共有部	18.7㎡
201 号室	9.8㎡
202 号室	10.4㎡

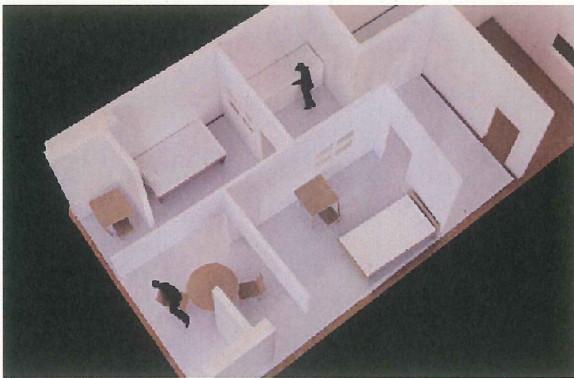


■3F

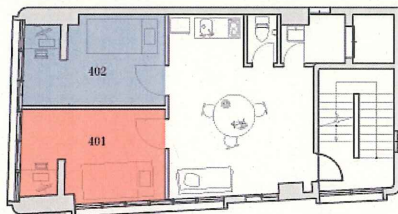


3Fは、コモンスペースを北側と南側に配置した。北側のキッチン脇にはそれぞれの個室の開口あり、互いの生活が滲み出る。南側のコモンスペースは自室の稼働間仕切りを開けることにより広く使え、他者との関係性を常に意識しながら生活を送ることができる。

3F床面積	56.7㎡
共有部	18.6㎡
301号室	9.8㎡
302号室	9.5㎡

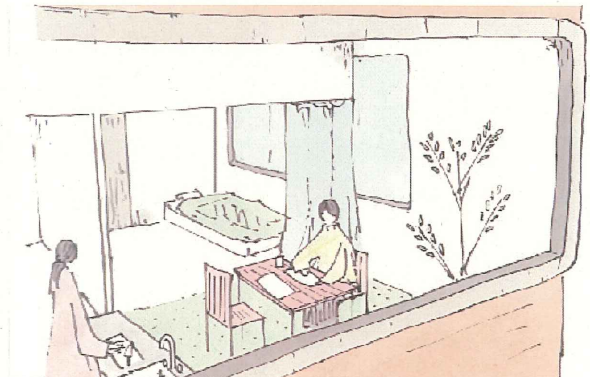
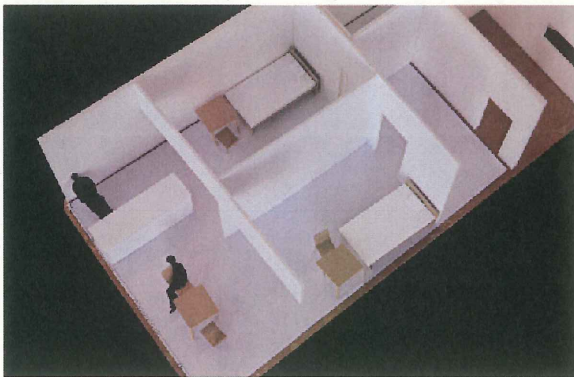


■4F



個室の南側にコモンスペースを設置する。基本的に4Fの居住者だけでコモンスペースを共有する暮らしになる。従来のシェアハウスは個別に住まうようなシーンが想像されるが、コモンスペースが奥にあることにより、身内や恋人なども暮らしやすいように設計を行った。

4F床面積	56.7㎡
共有部	12.1㎡
401号室	9.7㎡
402号室	10.0㎡



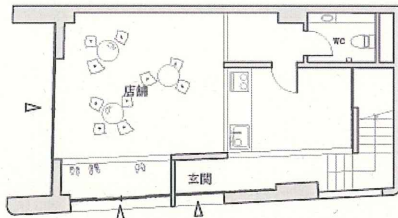
■Eタイプ

コンセプト

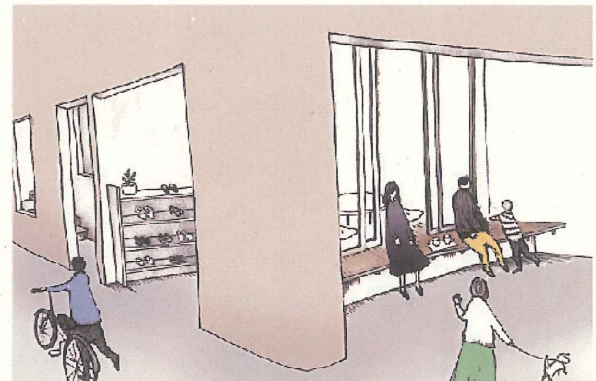
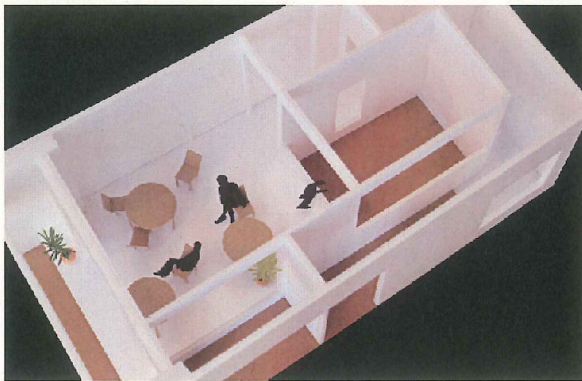
共用リビングのような”集まる場所”を設けるのではなく、各住戸へのアプローチとなる共用廊下を、住人同士が緩やかに繋がりを持つことのできるような場所となるよう設計した。床や天井のレベル差や開口によって、それぞれの部屋のプライベート性が、居室、ロフト、共用廊下に設けられた専用スペース、共用廊下と、順を追って弱まってゆくよう計画し、グラデーショナルなシェアの領域を作り出す。

■1F

シェアハウスの住人だけでなく、まちの人々も気軽に立ち寄ることができるようにと考えた。出来るだけ大きくとった開口部と段差によって、まちに対して開いた縁側のような空間とした。

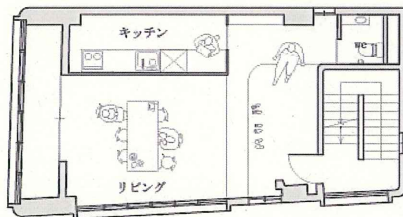


1F床面積	56.7㎡
店舗	38.8㎡
水回り	3.4㎡
生活動線	6.9㎡

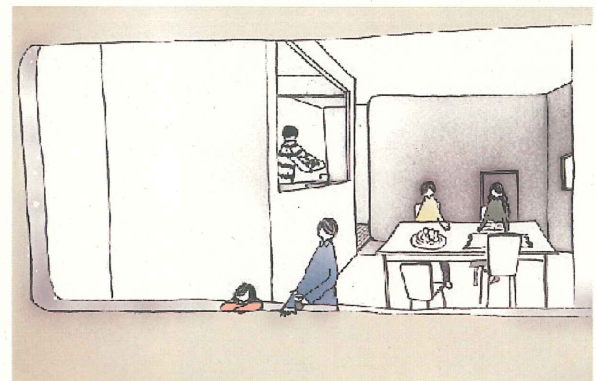


■2F

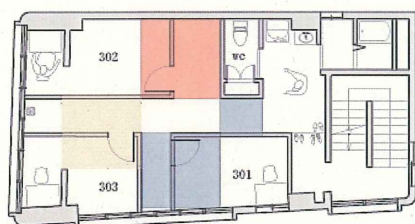
床のレベル差によりくつろぐスペース、料理を作るスペース、などの領域規定と、動線の確保を行った。1階と同様に、窓際には縁側のようなスペースを設けた。



2F 床面積	56.7㎡
共有部	35.1㎡
キッチン	7.2㎡
水回り	2.5㎡

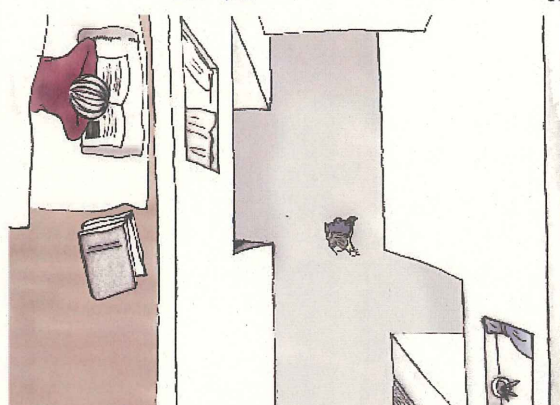
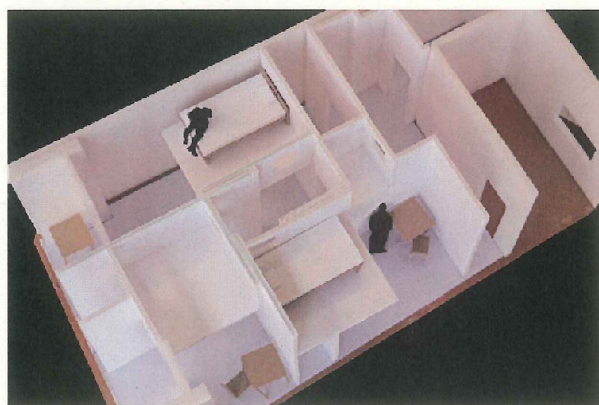


■3F

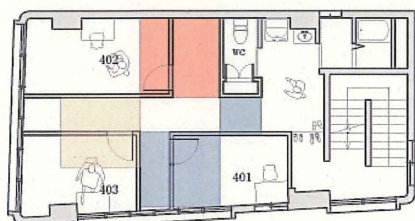


3つの居室全てが廊下によって隔てられるような構成とし、居室から廊下に向かってロフトを伸ばす。共用廊下のうち、自分の家のロフト下を個人の領域として使用する。ロフトに開いた開口や、共用廊下内の個人領域から生活が滲み出す。

3F床面積	56.7㎡
301 号室	11.5㎡
302 号室	12.5㎡
303 号室	10.5㎡



■4F



3階と同様に、3つの居室全てが廊下によって隔てられるような構成とし、居室から廊下に向かってロフトを伸ばす。共用廊下のうち、自分の家のロフト下を個人の領域として使用する。ロフトに開いた開口や、共用廊下内の個人領域から生活が滲み出す。

4F床面積	56.7㎡
401 号室	11.5㎡
402 号室	13.0㎡
403 号室	11.0㎡

